マリオ新聞

2002年(平成14年)
7月14日
(日曜日)

❷面「ひと目でわかる『マリオ』の歴史」ほか
❸面「四コママンガ&川柳大賞決定!!」ほか
❹面 レアもの続出!? 『マリオ』グッズあれこれ
㉚面『テニス』を使うウラ技で行けるらしい!?

7月19日(金) スーパーマリオサンシャイン ニンテンドーゲームキューブにて 発売!!

マリオ で 疑惑浮上!?

←とんだ話題の焦点になってしまったマリオ。ラクガキ疑惑は、彼のヒーロー生命を絶ちかねない。

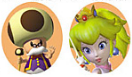
あのマリオが、とある島をハデに汚して住人たちを困らせている……!? マリオを信頼し愛する私たちが、思わず耳を疑うような黒い噂が流れてきたのは、彼が活躍する新作ソフト、『スーパーマリオサンシャイン』の発売が迫ってきた初夏のある日のことだった。マリオといえば正義の人。姫がさらわれればそれを助け、はぐれ雲を見つければ無事に家まで送り届けるという、善意の塊のような人物だ。それがなぜ、罪のない住人を困らせているのか!? 私たちは、一路マリオが騒動を起こしたと言われる南の孤島、ドルピック島へ向かった。なんとその島は、いたるところ正体不明の液体で描かれたラクガキだらけで、悲惨な状態だったのだ。しかもこのラクガキは、足を踏み入れると吸い込まれたり、つぎつぎに敵を生み出したりと、悪質極まりない性質を持ったラクガキだったのだ。

港町にはマリオの人相書きが貼られ、物々しい雰囲気になっているが、本当に彼がラクガキの犯人なのだろうか？ 私たちは、現地で詳しく調査を行った。

目撃者続出

▶モンテ族（18）　▶マーレ族（28）

ドルピック島は、マリオとピーチ姫の一行が訪れた常夏の島だ。彼らはバカンス目的に訪れたはずだが……。ドルピックタウン在住のモンテ族(18)は語る。「オラ、この目で見ただよ！ マリオってヤツに違いねぇ！」。彼は犯人を目撃した数少ない証言者で、人相書きの協力もしたという。また、マーレ族の主婦(28)もこう語る。「坊やと散歩をしていると、ものすごい速さでマリオさんが横切っていったんです。振り返ると、壁に真っ赤な"M"のラクガキが……。あれってマリオさんの頭文字ですわよね？」。と、ほとんどの島民がマリオが犯人だと確信している。これに対し、キノコ王国の執事、キノじい(推定年齢64)とピーチ姫(年齢不詳)は、「じぇったいにマリオ殿が犯人などではありましぇんぞ！ フガッ!?」。「マァ！ キノじいの入れ歯が海に！ アーレ〜！」と、疑惑に対して憤慨はなはだしい様子だった。



▶キノじい（推定年齢64）　▶ピーチ姫（年齢不詳）

新たな犯人像

マリオのラクガキ疑惑が広がる中、その真相を追求するためにドルピック島をくまなく調査したところ、私たちはついに、毒々しい色の液体でラクガキをする謎の影を発見した！ 信じられないことに、その謎の影はマリオにそっくりな姿形をしていたのだ。昔からマリオになじみのある私たちでさえ見間違うほどだったので、島民たちが誤解するのも無理はないはずである。

謎の影は何の目的があって島をラクガキで汚し続けるのだろうか。また、どうしてマリオと似通った容姿をしているのだろうか。帽子に描かれた"M"の文字といい、ヤツが去ったあとに必ず残される"M"マークといい、まるでマリオを落とし入れようとするかのような要素が数多く重なるのはなぜなのだろうか？ ドルピック島で起きたマリオのラクガキ疑惑は、真犯人の登場でさらに謎を深めてしまった。ある情報通の話によると、マリオはすでに、自分にかけられた濡れ衣を晴らし、島民の信頼を回復させるため、背中に水の入ったポンプをしょってドルピック島内のラクガキを洗い流しながら歩いているという。

事件の発端はドルピック島にあり。そして、その真実は『スーパーマリオサンシャイン』にあり。真実を知るために、マリオとともにすべてのラクガキを消す冒険に出て、彼の疑惑を晴らすのだ。

➡ドルピックタウンの広場で二アミスを起す、マリオと謎の影。これでマリオが犯人ではないのが証明された。（午後1時30分ごろ本紙カメラマン撮影）

←これが真犯人の姿だ！ 背格好は同じだが、透明の体をしているぞ！

配管陽光

配管工とは並々ならぬ苦労をともなう職であると聞く。すなわち町のほうぼうに巡らされたパイプ類を相手にするわけであるから、勢い煤にまみれたりもしよう▼ましてやそれを兄弟でこなすとなれば、その気苦労たるや言語を絶することが想像に難くない▼先日、労働省より全国職業別苦労率が発表された。資料によれば、配管工の苦労率はなんと72.4パーセントを越えたという。じつに戦前の4倍である▼勅使河原春男が編纂した日本最古の活版暴露本、東日本うたかた黙示録にこんな句がある。"夜は更けて、カラスは露天で爪を研ぐ。世に顔面の武士は幸せ"。じつにとんちの効いた話である▼それにひきかえ、日本のそれはどうであろうか。空転をくり返す国会での審議はどうであろうか。あれが本当にオフサイドなのであろうか。けんもほろろである▼さて、いよいよ夏到来ということで日射しのまぶしい季節になった。夏到来、とはこのことであろうか。風が強い。我が身を反省するばかりである▼印象に残ったのは、近年のオーバーオールブームについて、南仏の読書家が述べたつぎのような言葉である。それがなんであるかはここには書かない▼ミスター・アクションゲームと呼ばれた男がいる。これはまた、とんちの効いた話である▼配管工の話を続けよう。現代の子供たちは、ヒゲについてどう考えるのだろうか。あるいは、ヒョホーイ、アヒャッホーという叫び声について何を感じるのだろうか。近年のポリゴン生成技術により、いまやゲームソフトは立体を極めつつある。はたして森鴎外はこれは想像しただろうか。けんもほろろである。▼少しずつ季節は移り始めるのだろう。春から秋へ、秋から夏へ。しかしながら、いまの子供たちがイタズラをしないわけではない。壁のラクガキは消してしまえばよいのだ。ゆめゆめ忘れることなかれ。

週刊ファミ通は「スーパーマリオサンシャイン」を応援しています!!

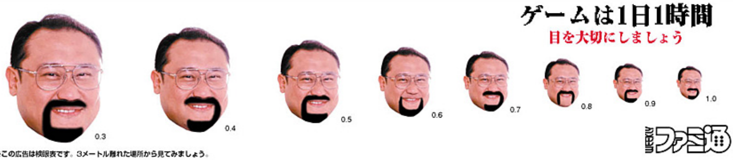
"マリオのために何ができるか？"という命題のもとに、マリオを愛する本誌編集者がソフトの発売を世に広めるべく、新聞作り&配布をします！

制作スタッフ
バカタール加藤、キッシー関山、大塚角満、毛利名人、永田泰大、ポルノ鈴木、ウワーマン、あまのっさん、針生セット、ふじのっち、奥村キスコ、菅谷あゆむ、プロアクション島谷、武藤先輩、ヤリジュン先生、たーたん

スペシャルサンクス
特別感謝:小島秀夫、三上真司、平林久和、渡辺浩弐
四コママンガ:メカ、マチュピチュ、高橋洋晃　川柳:加藤智一、ヌフムヨ、GT-R、虫田

and MARIO ©2002 Nintendo

ゲームは1日1時間
目を大切にしましょう



※この広告は検眼表です。3メートル離れた場所から見てみましょう。

WEEKLY ファミ通